

京都国立博物館
だより

四・五・六月号
二〇一九年

KYOTO NATIONAL MUSEUM

2019 April to June vol. 202

特別展
時宗一祖上人
七百年御遠忌記念
**国宝一遍聖絵と
時宗の名宝**

ICOM京都大会開催記念
特別企画

京博寄託の名宝
—美を守り、美を伝える—



時宗の名宝 一遍聖絵と

4月13日(土)～6月9日(日) [平成知新館]
前期：4月13日(土)～5月12日(日) 後期：5月14日(火)～6月9日(日)



写真提供 島根県立古代出雲歴史博物館

重要文化財 二河白道図 島根・萬福寺
(前期展示) (図2)



重要文化財 阿弥陀如来立像 (通期展示) (図1)

全国を遊行し、阿弥陀の名を記した札を配る「賦算」や、念仏を唱えながら輪になつて踊る「踊り念仏」などでもよくしられる時宗は、鎌倉時代後期に宗祖一遍によって開かれました。一遍自身は遊行を自分一代限りと考えていたようですが、一遍が亡くなつたのちに時宗を教團として整備し、大きく発展させたのが二祖の真教でした。今年はその真教が亡くなつてから七百年というご遠忌の年にあたり、それを記念して、時宗にさわめてゆかりの深い京都で、戦後初となる時宗の大々的な特別展を開催いたします。

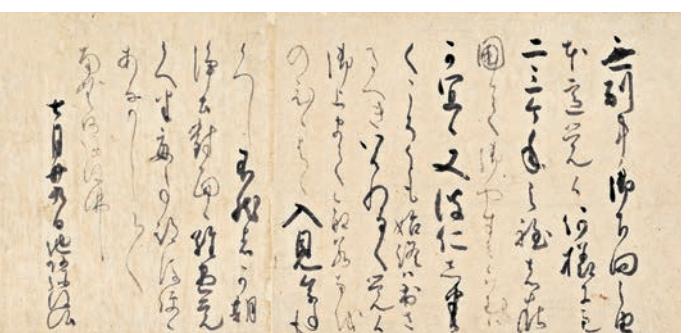
本展は次の五章から構成されています。



国宝 一遍聖絵 円伊筆 卷十二(部分) 一遍臨終の場面 神奈川・清淨光寺(遊行寺)
(この場面は後期展示) (図6)



国宝 一遍聖絵 円伊筆 卷三(部分) 熊野権現より神託を受ける場面 神奈川・清淨光寺(遊行寺)
(この場面は前期展示) (図5)



重要文化財 真教上人書状 寿阿弥陀仏宛 (遊行歴代他阿弥陀仏書状類のうち) 京都・長楽寺
(後期展示) (図4)



国宝 洛中洛外図屏風(舟木本)右隻(部分) 岩佐又兵衛筆 東京国立博物館
(5月28日～6月9日展示) (図10)



重要文化財 真教上人坐像 神奈川・蓮台寺(通期展示) (図7)



重要文化財 一鎮上人坐像 康俊作 京都・長楽寺(通期展示) (図8)



遊行上人縁起絵断簡 奈良・大和文華館(前期展示) (図3)



阿弥陀如来立像 行快作 京都・聞名寺
(通期展示) (図9)

時宗寺院のひとつ、御影堂新善光寺の様子が描かれた部分

右上：国宝 一遍聖絵 円伊筆 卷十一(部分) 淡路での踊り念仏の場面 神奈川・清淨光寺(遊行寺) (この場面は前期展示)

京博寄託の名宝 —美を守り、美を伝える—

8月14日(水)～9月16日(月・祝)【平成知新館】



重要文化財 宝篋和尚立像 京都・西住寺



国宝 風神雷神図屏風 俵屋宗達筆 京都・建仁寺

第25回国際博物館会議（ICOM）大会は京都で開催！

3年に1回、世界中の博物館関係者が一堂に会する国際博物館会議（ICOM）の第25回大会が、2019年9月1～7日に京都で開催されます。博物館を核とした関西全体の盛り上がりが期待されています。今後の動きにぜひご注目ください。

ICOM (International Council of Museums)とは？

博物館の専門家により1946年パリに創設された、ユネスコと公的な協力関係を結ぶ国際的な非政府機関（NGO）。世界の博物館の進歩・発展のために尽力することを目的としており、現在、141の国と地域から博物館関係者約37,000人が会員として参加している。

(山本英男)



重要文化財 東駁斗文様振袖 友禅会



国宝 伝源賴朝像 京都・神護寺

海外からの来館者に向けた新しい取り組み

京都国立博物館アソシエイトフェロー マリサ・リンネ 協力 小林亜姫

最近、京都国立博物館の名品ギャラリー（平常展示）が何か変わったことにお気づきではないでしょうか。もちろん展示作品は4～6週間ごとに入れ替えられるため変わっていきますが、それとは別に、実際に画期的な変化があったのです。それは、展示室内の作品解説が、日本語だけでなく、英語、中国語、韓国語でも提供されるようになりましたことです。

海外からの観光客が年々増え続ける京都において、多言語化に対応することはとても大事なことなのですが、それを実現するのは本当に大変です。作品解説の多言語化にあたっては、さまざまな试行錯誤がありました。まず、作品とともに設置される以上、見た目はとても重要なだと考えました。展示ケースの中の解説が4言語分4倍のスペースを占めるようになれば、作品より解説が主役のように見えてしまうことでしょう。その問題を解決するため、英語、中国語、韓国語の解説については、日本語よりも文字量を制限することになりました。文字のフォントや大きさも、これまでの日本語解説と並べて違和感がなく、かつ読みやすいものになるよう、何度も検討を重ねました。

さらに、いうまでもないことですが、大切なのは内容です。日本人に向けて書かれた解説そのまま翻訳したとしましょう。日本にしかない風物について、日本人は当然説明がなくとも理解できますが、日本に初めてやってきた海外の方には、固有名詞をそのまま音訳しても内容はまったく伝わりません。そのため、少ない文字量でより多くの情報を伝えるために、日本語解説を機械的に翻訳するのではなく、趣旨を尊重しつつ、各言語の文化背景にも配慮し、必要な範囲で小さなアレンジを加えること



Human Figures, Birds, and Animals
This handscroll, over 16 meters in length, unfolds to reveal unexpected, often humorous scenes. The artist Rosetsu, who was trained in Kyoto under the master painter Maruyama Ōkyo (1733-1795), did this in his late 20s or early 30s. While retaining Ōkyo's influence, it also shows that Rosetsu's had already developed his own distinctive style.

人物鳥兽画巻
By Maruyama Rosetsu (1734-99)
Edo period, 18th c.
Gift of Ms. IWASAKI Katsumi
Kyoto National Museum

人物鳥兽画巻

名品ギャラリー 多言語作品解説

Human Figures, Birds, and Animals
This handscroll, over 16 meters in length, unfolds to reveal unexpected, often humorous scenes. The artist Rosetsu, who was trained in Kyoto under the master painter Maruyama Ōkyo (1733-1795), did this in his late 20s or early 30s. While retaining Ōkyo's influence, it also shows that Rosetsu's had already developed his own distinctive style.

人物鳥兽画巻
By Maruyama Rosetsu (1734-99)
Edo period, 18th c.
Gift of Ms. IWASAKI Katsumi
Kyoto National Museum

人物鳥兽画巻

になりました。来館者からの反応は今のところ好評のようです。文字量が少ない分早く読めるため、最後まで疲れずに展示を楽しめたという感想、内容が各言語で微妙に異なることについて、スタッフの工夫を評価してくださるアンケートへのご意見もありました。

多言語化は2017年夏より開始しましたが、翻訳担当者以外にも多くのスタッフがかかわっています。展示替えのタイミングは分野によって異なるため、毎月何かしら新しい展示作品があります。時には百件以上になることもあります。それらすべての作品について多言語解説を準備するためには、綿密な調整やチームワークが欠かせません。当館の多言語解説は、各工程を担当するスタッフ全員の努力と熱意があつて実現できたことなのです。

海外旅行にお出かけの際、ニューヨークであればメトロポリタン美術館やMOMA、パリであればルーヴル美術館などへ立ち寄られる方が多いのではないかでしょうか。近年、大英博物館への外国人来館者数は、全体の四分の三になっているそうです。今年は京都の地でICOMこと国際博物館会議の世界大会が開催されます。世界へ向けてよりいつそう京都国立博物館の活動を発信し、京都へ訪れる海外からの観光客にとって見逃せない目的地となることを目指して、取り組んでいるところです。

京博ナビゲーターの活動のご紹介

京博ナビゲーターは、京博を訪れたお客さまに文化財的魅力を発信する喜びを共有したいという思いで集まつた約二百名の仲間たちが平成新館内で活動をしています。

京博ナビゲーターの主な活動は、名品ギャラリーの期間中に毎日実施している「さわって発見！ミュージアム・カード」です。このカードでは、お客様との対話を楽しみながら、文化財のレプリカや材料、制作工程の見本などを紹介しています。教材を手に取つて、細部をじっくりと観察することで、展示室で見るだけではわからない文化財の奥深さを実感していただくのがねらいです。文化財についてさらに探究したい方には、参考図書や情報機器の利用案内も行っています。



2018年開催「京のかたな」展のワークショップの様子

特別展の期間中は、展覧会のテーマに合わせたワークショップを担当しています。昨年の「池大雅」展では、指や爪で水墨画を描く指墨画の体験、「京のかたな」展では、本物の刀の鑑賞をご案内し、大好評を博しました。この春の特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」では、絵巻の詞書と絵の部分が別々に所蔵されている「一遍聖絵」巻七を、所蔵者の許可を得て、特別に合体させたレプリカを用意しています。京博ナビゲーターは、お客様とともに楽ししく絵巻を繰り広げられるよう、取り扱いを猛特訓して臨みます。京博ナビゲーターと交流しながら、特別な絵巻をぜひ手に取つて鑑賞してみてください。

(安部真里奈)



ミュージアム・カードでの活動の様子

各種会員制度のご案内

京都国立博物館では、お得にご利用いただけるバスや、ご支援いただく各種制度を設けています。この機会に、ぜひご入館ください！

◆ **国立博物館メンバーズバス**
京都・奈良・東京・九州の4つの国立博物館でご利用いただけます。

【年会費】一般 二〇〇〇円／学生 一〇〇〇円
【有効期限】発行日から一年間
【特典】
①京都・奈良・東京・九州国立博物館各館の平常展を何度でも観覧可能
②京都・奈良・東京・九州国立博物館が主催する特別展を、何度でも割引料金で観覧可能（本人のみ。他の割引との併用不可）

*京都国立博物館では特別展覧会期間中、名品ギャラリーをご覧いただけません。また、土曜講座は、特別展覧会期間中は開催いたしません。

③当館発行バスのみ) 京都国立近代美術館・国立国際美術館・国立民族学博物館・京都府京都文化博物館・京都市美術館の平常展・特別展示が团体料金で観覧可能（本人のみ。共催展の場合は適用外の場合あり）

④当館発行バスのみ) 公益財団法人京都古文化保存協会が実施する「京都非公開文化財特別拜観」の協力社寺等で拝観料割引（本人のみ。春・秋に実施。割引対象外の場合あり）

⑤当館発行バスのみ) 京都水族館の入場料金が団体料金に割引（付添1名含む）。

【申込方法】博物館窓口または郵便振替

◆ **キャンパスメンバー**

大学等との連携を図り、博物館が所蔵する文化財を核として文化や歴史を共に学ぶ場を提供する会員制度です。奈良国立博物館キャンパスメンバーと併せてご利用いただくこともできます。

【申込方法】郵送

◆ **ミュージアムパートナー**

京都国立博物館の諸活動に対し、外部の団体等から幅広く支援を得るために設けた制度です。皆様からのご支援は、展示・公開、文化財の収集・保管・修理、教育普及等に活用いたします。

【年会費】一口五〇万円（一口以上）
【有効期限】認定日より一年間（認定月の翌年同月末日まで）
【特典】
①京都国立博物館公式ウェブサイト掲載
②特別展開会式・内覧会へご招待
③名品ギャラリー（平常展）、特別展チケット提供
④博物館スペースの利用
⑤「特定公益増進法人」に対する寄付として税制上の優遇措置
⑥支援に対する感謝の食事会へのご招待
⑦京都国立博物館を支援している旨の広報が可能

*名品ギャラリーは、京都国立博物館では特別展覧会期間中、名品ギャラリーをご覧いただけません。また、土曜講座は、特別展覧会期間中は開催いたしません。

ナード開催するお問い合わせ先

株式会社聖護院ハツ橋、彌榮自動車株式会社、学校法人二本松学院

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527
電話：075-531-7504（月～金曜日の午前10時～12時、午後1時～5時、祝日を除く）

メールアドレス：jiby02@kyohaku.go.jp

◆ **ミュージアムパートナー一覧** *2019年3月末現在
【年会費】学生数に応じて異なる
【有効期限】原則として4月1日から翌年の3月末日まで
【特典】
①名品ギャラリー（平常展）の無料観覧
②特別展の観覧料金の割引
③講演会の開催
【次回予定】
特別展 時宗二祖上人七百年御遠忌記念「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」講演会
日時：4月26日（金）午後5時～6時
④研究誌（学叢・博物館だより等の刊行物、展覧会図録）等の無料提供

【キャンパスメンバー一覧】 *2019年3月末現在
株式会社日本香堂、有限会社竹内美術店、土屋和之、株式会社聖護院ハツ橋、彌榮自動車株式会社、学校法人二本松学院
学校法人瓜生山学園、大阪大学、大阪大谷大学、大谷大学、大手前大学、学校法人関西大学、学校法人関西学院、京都大学、京都外国语大学、京都大谷大学、京都大谷大学、京都教育大学、京都工芸繊維大学、学校法人京都産業大学、京都府立大学、近畿大学文芸学部、京都精華大学、京都橘大学、嵯峨美術大学、嵯峨美術短期大学、四天王寺大学、人文社会学部、就実大学人文科学部、成安造形大学、帝塚山大学、京都女子大学、京都市立芸術大学、学校法人京都産業大学、学校法人同志社、奈良大学、奈良女子大学、奈良先端科学技術大学院大学、学校法人二本松学院、花園大学、佛教大学、学校法人立命館、龍谷大学

よみもの

文化財の公開が可能な「環境」とは？

京都国立博物館学芸部長 朝賀 浩

本年一月二十六日、冷たい雪が舞い散る中、奈良斑鳩の法隆寺では今年も金堂壁画焼損自肅法要が営まれた。昭和二十四年（一九四九）のこの日早朝、法隆寺金堂は不慮の火災に見舞われ、美しい仏菩薩の姿を描いた我が国が世界に誇る至宝、法隆寺金堂壁画が取り返しのつかない損傷をこうむつた。それからちょうど七十年になる。この火災は翌年の『文化財保護法』制定の契機となり、昭和三十年からはこの日を文化財防火デーと定めて、第六十五回の節目となる本年は文化庁長官を始め多くの関係者が法隆寺に参集し、真剣な訓練が執り行われた。

翌二十七日には第五回法隆寺金堂壁画保存活用委員会が開催された。この委員会は、火災後に境内に設けられた収蔵庫の中に長年封印されてきた焼損壁画の一般公開を目指して、法隆寺が保存活用上必要な総合的調査を行なうのを支援するために、平成二十七年（二〇一五）暮れに結成された。同壁画の保存に関しては、岡倉天心の提言を受け大正五年（一九一六）に文部省が法隆寺壁画保存方法調査委員会を設置したが、それからちょうど百年を経て新たな委員会が立ち上がつたことになる。

現在、収蔵庫内には黒く炭化した金堂初層の軸部（柱や梁）と周囲大小十二面の色褪せた焼損壁画が元の配置に倣つて組み上げられており、いまも火災現場を彷彿とさせる。これらに加え庫内には焼損をまぬがれた飛天図壁画二十面、焼け落ちた山中羅漢図壁画残片、取り替えられた膨大な建築部材や五重塔壁画、さらには工事や修理に関連する書類や記録、写真や図面など貴重な資料も保管されている。

これらを将来にわたつて保存、活用するための環境や条件を総合的に精査し、遺された文化財の価値を再評価することを目的に委員会が設けられてから三年が経過した。委員会のもと、壁画（美術史／材料調査）、建築部材、保存環境、アーカイブという四つのワーキンググループがさ

さまざまな調査を進め、これまでに一定の成果を上げている。第五回委員会では、焼損七十年を機に、その中間報告として収蔵庫の耐震強度や庫内の環境形成メカニズムなどについて説明があり、当面この収蔵庫を使用した壁画の公開は不可能ではないとされた。また資料類のデジタル化や収蔵庫 자체の建築史的評価なども進められている。今後は庫内の保存環境を良好に保つための運用上の具体的提言や、壁画や軸部の保存状態に関する調査等が進められる予定である。

委員会後の記者会見では、当日の中間報告を受けて、公開時期がいつ頃になるのかという点に質問・関心が集中したが、この時法隆寺大野玄妙管長は「環境が整わなければ」ということを強調された。そうなのだ、専門家がどれだけ学術的、科学的に収蔵庫内外の環境や壁画等の状態が良好だと説明できたとしても、「環境」すなわちこの場合は国民の理解や世論の醸成のことだが、それらが得られなければ所有者として責任ある公開はできない。かくも痛々しい壁画を衆目に晒すのか、といった誇りを受ける懸念もある。

何のための公開か。大野管長は明快に応える。あの痛々しい壁画は、あの場に立つてみれば、それでもいまも圧倒的な存在感で我々に静かに迫ってくる。あの姿を覗けば誰とても文化財を護つていかなければならないという気持ちになるんだ。と。文化財の活用とは、その愛護の機運を醸成するためにこそ行われるべきで、金堂壁画の公開は文化財保護の象徴とならねば意味がない。

そのための「環境」の整備が必要だ。委員会では今後も様々な学術的調査を行い、壁画の安全性の確認と、その文化財的価値の再評価を行なっていくが、それらと並行して国民から理解を得るための粘り強い働きかけが求められているのだと再認識している。

特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」記念講演会

4月13日(土)「時宗教団の変遷」

時宗宗学林学頭 長澤昌幸 氏

4月27日(土)「一遍・真教の念佛思想」

時宗教学研究所顧問・真光寺住職 長島尚道 氏

5月11日(土)「国宝 一遍聖絵—旅と風景、その魅力と謎—」

京都国立博物館研究員 井並林太郎

5月18日(土)「時宗のみほとけ—阿弥陀と祖師像を中心に—」

京都国立博物館連携協力室長 浅沢 肇

5月25日(土)「一遍聖絵に見る聖性と熊野信仰」

遊行寺宝物館長 遠山元浩 氏

*平成知新館 講堂にて、13時30分～15時に開催。定員200名、聴講無料（ただし当日の「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」展観覧券が必要）。

*当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

[名品ギャラリー休止期間]

3月19日(火)～4月11日(木)

6月11日(火)～6月30日(日)

*名品ギャラリー休止期間中は庭園のみの開館となります。

ご利用案内

[開館時間]<3月19日～4月11日>

9:30～17:00

<4月13日～6月9日>

9:30～18:00 *金・土曜日は20:00まで開館

<6月11日～6月30日>

9:30～17:00

*入館は各閉館の30分前まで

【観覧料】 【特別展「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」】

一般 1500円(1300円)

大学生 1200円(1000円)

高校生 900円(700円)

*（ ）内は団体20名以上、中学生以下、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

*大学生・高校生の方は学生証をご提示ください。

*キャンバスメンバーズ（会員登録）は学生証または教職員証をご提示いただくと、当日の各通常料金より500円引きとなります。

*特別展期間中、名品ギャラリー（平常展示）は休止となります。

【庭園のみ開館期間】

一般 260円(210円)（庭園ガイド冊子付き）

*（ ）内は団体20名以上

*大学生以下、満70歳以上、障害者とその介護者1名は無料（要証明）。

[休館日] 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)
4月12日

アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂前下車すぐプリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分

近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分

京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分

阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分

駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒（角2封筒は120円、長3封筒は92円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2019年4月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 株式会社

ライブアートブックス

講座・イベント

《時宗声明と踊躍念佛》

日 時：4月28日(日) 午後1時30分～午後3時

会 場：平成知新館 講堂

出 演：時宗京都声明研究会

*定員200名、参加無料（ただし当日の「国宝 一遍聖絵と時宗の名宝」展観覧券が必要）。

*当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

《京都・らくご博物館 春》

日 時：5月24日(金) 18時30分 開演（18時開場）

会 場：平成知新館 講堂

出 演：桂慶治朗 桂鯛藏 桂南天 <中入> 桂ちょうば 桂米二

入場料：3100円（キャンバスメンバーズは学生証提示により2500円）

*全席指定、特別展団割引換券付

*チケットご希望の方はお電話、またはWEBよりお申し込みください。

お電話／博物館事業推進係 075-531-7504（月～金の10～12時・13～17時に受付 *祝日は除く）

WEB／<https://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【春】申し込み画面

《2019年度夏期講座のお知らせ》

テーマ：日本人と自然

開講日：7月26日(金)・27日(土) *1日3講、計6講座となります。見学会はありません。

会 場：平成知新館 講堂 定員：200名 聴講料：3000円

*申込方法：往復はがきに住所・氏名・年齢・職業、電話番号を明記の上、京都国立博物館「夏期講座」係（〒605-0931 京都市東山区茶屋町527）までお申し込みください。お申込期間は6月1日～10日です。

*5月31日以前の申込は無効となります。申込人数が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。

これからの展覧会

◆特集展示 新収品展

7月2日(火)～8月4日(日)

◆特集展示 赤ってじつはどんな色？

7月2日(火)～8月12日(月・祝)

◆ ICOM京都大会開催記念 特別企画

京博寄託の名宝—美を守り、美を伝える—

8月14日(水)～9月16日(月・祝)

国立博物館の展覧会

【東京国立博物館】

特別展「国宝 東寺—空海と仏像曼荼羅」

3月26日(火)～6月2日(日)

【奈良国立博物館】

特別展「国宝の殿堂 藤田美術館展 曜変天目茶碗と仏教美術のきらめき」

4月13日(土)～6月9日(日)

【九州国立博物館】

特別展「京都 大報恩寺 快慶・定慶のみほとけ」

4月23日(火)～6月16日(日)